

第 1 回那珂川市文化芸術推進審議会の振り返り

1. 調査対象について

(1) 子ども

- アンケートの対象者が 18 歳以上というのは、何か理由があるのか。子どもの実態把握は、とても大切なことではないか。
- 全学年ではなくとも、例えば、6 年生だけ、中学生 2 年生だけというように対象を絞って調査をしてもらうと、子どものニーズも分かってくる
- 学校で芸術に触れる機会があるが、結局、全て先生が決めてしまう。子どもが何を聞きたかったのかなどが分からないまま進んでいる
- このような計画づくりにおいて、「子どもに」という時に、実は子どもの文化を大人がコントロールしている恐れ、恐れというよりも、そういう面がある。子ども自身が文化を作っていくことと、ある種、子どもが主体的に、「主体的に」ということをどのように位置づけるかもあるが、これからの長いスパンを考えた時の那珂川市の文化芸術を考えた場合に、子ども自身が意見を表明したり、主体的になれたりすることが大切だ
- 特に子どもに関して、文化ということが何のことか分からないと思う。問 3 に書いてあるような内容を示し、「文化と思うものに○をつけて見ましょう」というような質問があれば、「これも文化なのだ」となってくる。

【対応方法】（議題 3 で説明）

- 子どもを対象とした意識調査を実施する方向で検討中。

(2) 文化芸術に触れる機会がない市民

- 調査票を読んでいて、結局、回答してくれるのは文化芸術に興味がある人だけという気がしている。触れる機会がない人でも答えやすい設問を入れられると、決まりきった文化芸術に対する回答以外のものが得られて、策定に反映できるのではないか。
- 例えば、過去 1 年間に行ったことが無い人も、文化芸術に触れた時のことを思い出せる質問があると、回答しやすいのではないか。
- 従来、届きにくい方に集まってもらって意見を聞くことは難しく、従来、届いていない方は、市民意識調査の中でそのニーズを拾っていく方が現実的である。もしくは、届きづらいからこそ、関係団体として、例えば子育て団体や、どこかの学級にパイロット市場的に聞いてみるなど、こちらから出かけていかないと届かないのではないか。

【対応方法】（議題 3 で説明）

- 文化芸術に触れる機会がない市民について、基本的に市民意識調査でニーズを把握する（回答しやすいよう、設問順番を入れ替える等の工夫を行う）。
- あわせて、関係団体ヒアリングにおいて、文化芸術に触れる機会がない市民にもヒアリングを行う方向で検討中。

(3) 文化施設利用者・市外在住者

- ミリカローデンの利用者は市内在住者に限らない。那珂川市らしさと言った場合に、那

珂川市在住ではない周辺の市町村の人が利用しているということが、那珂川市らしさにもつながってくると考えると、周辺の市町村の方のニーズをどのように捉えていくのか。

- 例えばミリカローデンで開催する有料公演であれば、来場者の半数以上が福岡市内からである。
- 那珂川市にいらっしゃる近隣の方が集まる一番の場所としてはミリカローデンだと思う。ミリカローデンにいらしゃった方に、アンケートを採っては如何か。
- 図書館の利用で、例えばエントランスに来られることも考えられる。文化ホール単体で来られるというよりも、複合的に来られる方が多い。

【対応方法】（議題3で説明）

- ミリカローデン来館者に対して、意識調査を実施することが可能か、調査方法を検討中。

2. 調査内容について

(1) 市民意識調査

- 問1の「文化と聞いて何を思い浮かべるか」という質問だが、かなり広い質問だ。「文化と聞いて思い浮かべるジャンルは何か」という質問と、「那珂川市の文化と聞いて何を思い浮かべるか」という質問が混在している

【対応方法】（議題3で説明）

- 第1回審議会での意見を踏まえ、調査票を修正。

(2) 文化関係団体ヒアリング・ワークショップ

- ミリカローデンが拠点となるのであれば、拠点を使っている人たちの実態を把握することは、計画の中で重要になってくる。
- ミリカローデンについてもそうだと思うが、ナカイチも、那珂川市外から来る那珂川市の文化を支える人達ということで、もう少し深く知るキッカケがあると良い。
- ワークショップの企画案のところで、子育て中の両親とあり、主な特徴として「20～40歳代女性が多く…」とある。この両親というのはどういうことか。
- 調査場所としてミリカローデン、中央公民館、ナカイチなどが挙げられているが、これらの施設を運営している方へのヒアリングは、別にされるのか。あるいは、この関係団体ヒアリングに含まれるのか。
- 普段、来ないような人にワークショップを呼び掛けても来ない
- 他の自治体でこの手のワークショップをしたことがある。この時に良かったことは、その後、「こういうワークショップは楽しいので、これからもこの文化施設で、このワークショップだけでもやってほしい」との声が出たことだった。今の企画案は、ワークショップをやるためにやっている感じが見えており、残念である。
- 高齢者であれば公民館に行って聞かれる方が、ワークショップに集まってもらうよりも、集まりやすいのではないか。
- 障害のある方は、関係団体にも含まれているかもしれないが、行きたくても行けないというニーズが恐らく高い

- 集まって頂くというよりも、集まりそうな場所にこちらが出かけるという姿勢が大切だ
- 小さな子どもがいるから集まらないのであれば、どういう場所に出かけているかを考えると、例えば、〇歳児健診などがある。そのような場所で、その場で意見聴取が無理ならばアンケート、あるいは簡単なことだけ質問する。
- 関係団体ヒアリングについて、意見聴取が必要な団体等とあるので、文化系の団体以外に是非、積極的に聞かれることが、国や県の趣旨を生かしていくことになる。障がいのある方の団体、ご高齢の方の団体、社会福祉協議会のような福祉を支える団体、他にも、この調査の意図にもよるが、観光系の団体、地域振興の団体など、幾つか関わる所があると思うので、そのような所への意見聴取が必要ではないか。

【対応方法】（議題3で説明）

- 第1回審議会の意見を踏まえ、まずは関係団体ヒアリングに注力し、多様な関係団体や市民のニーズを把握するようにする。
- ワークショップについては、開催趣旨を再検討し、年度末～来年度に開催する方向で検討中。

3. 審議会の開催について

(1) 開催方法

- 行政の中でも、横とのつながりを入れてもらいたい。社会教育課にも、様々な団体があり、文化芸術に取り組んでいるところもある。障がい福祉課でもそうだと思う。そのような所との繋がりを作りながら、ヒアリングされてはどうか。
- 行政の方は枠がある。その枠を超えて活動されたので、あれだけ効果があって、良い結果になったと思う。今回の事業でも、担当部署はあるが、那珂川市として、とても大切な事業をされていると思う。先ほども、アンケート1つにしても色々な部署に関わることとして、協力してもらおうという話があった。そういう意識で、枠を超えた活動が出来れば良い結果につながる
- 今は計画づくりが目的の計画になっている。「確かに計画を作り、しっかり考えたはずなのだけど、これは別に那珂川市ではなくてもよくない？」というような、いわゆる一般的な計画になる。その先にある生き生きとした市民の温度感がない。そのようにならないようにするためには、計画づくり自体も、文化に対する想いを大事にしながら作らないといけない
- 大野城市の場合に部署横断が成功したのは、部署の人の選び方が上手かった。福祉課の課長というような役職で選ぶのではなく、「あの課のあの人は凄く変な人だから、きっと誘った方が良いよ」ということで連れてきているのが、凄く上手くいった秘訣だと思っている。計画策定の段階から関わっていたので、かなり当事者意識を高められていた。今は、もちろん全員異動してしまったが、そのマインドが継承されている。

【対応方法】（議題4で説明）

- 第1回審議会の意見を踏まえ、第2回～第4回審議会については、「文化芸術×●●」をテーマに、全国の取組実施主体から講師を招聘し、話題提供いただく（会場又はオ

ンライン)。また、テーマにあわせて庁内の関係部署の職員にも参加を呼びかける。

(2) 開催内容

①文化芸術へのハードルを低くする

- 審議会委員の話があった時に、文化芸術という文字を見て凄くハードルが上がった。みんな文化芸術活動をしているが、この文字を見るとハードルが高く感じてしまう。ハードルを少し下げていく。本質的な価値は確かに大事だが、ハードルが低くて、「これもそうだな」と、皆が思えるような市になっていけば、もっともっと文化芸術は広がる
- どうしても、文化芸術政策となると固いイメージがあると思うが、やはりそこに人の顔が見えることが必要と思う。このように市民意識調査を行うということも、大事なものはそのプロセスだと思う。どういう施設があり、そこにどういう人がいて、どのような文化芸術を欲しているのか、それぞれ違うと思う。

②文化芸術を生かした社会的包摂の取り組み

- 社会的包摂にとっても関心を持っていて、ミリカローデンもその拠点になりたいと思っている。アートの視点から福祉問題、社会問題を解決していく、そういう所になれば良い

③子どもと芸術教育

- 今、勤めている片縄小学校は、理科の研究校で、今、図工の研究校は筑紫地区にはなく、芸術分野は肩身が狭い。しかし、子どもは図工が好きである。個人としては、もっと芸術に触れさせたいと思っている中で、紹介頂いた中で教育と絡めたり、学童と絡めたりという話があった。教育と絡んだ話を、もっと聞きたいと思った。

4. その他

- 費用は大事である。費用というのは、計画を策定し、その後、計画を実行する時に、予算が無いということにならないように、是非、行政の皆さんにはお願いしたい。